

おいでん・さんそんSHOW

5月号
2019.5.01発行



旭地区加塩町で行われた「空き家片付け大作戦」に総勢34名が参加した

移住者受入れのため 自分たちで動く!

暮らしの大見本市&空き家片付け大作戦

旭
あさひ

小原
おぼら

人口減少・少子高齢化の波を少しでも食い止めたい。空き家の窓に明かりを灯したい。そんな地元の人々の想いが高まり、様々な取組が行われています。春の訪れが感じられる季節に、移住者の受入れに向けた2件のイベントが行われました。

**小原暮らしの
大見本市**

2月24日(日)、「第2回小原暮らしの大見本市」が小原地区大平町にて開催されました。

大平町のある大平自治区は、人口528人、高齢化率33%の地区です(1月1日現在)。175世帯のうち35%は1ターンのと、他地域と比べて高いのですが、それでも人口の減少や高齢化率の上昇は無視できない速さで進んでいます。そこで、自治区が中心となって、宅地物件、空き家、小学校を見学して回るツアーが企画され、センターは参加者募集の応援をしました。

一昨年に続き2回目となる「大見本市」には、田舎暮らしへの興味や通勤距離を短くするための空き家探し、豊かな子育て環境を考える方など4組8名が参加しました。

格安の土地やすぐ住めそうな空き家、見晴らし抜群の道慈小学校を見学した後、「食の交流会」



小原暮らしの大見本市では、思い出づくりの体験会として万華鏡を参加者と地元住民で作った。

(※)ひなまつりに飾る米粉で作るお菓子

新元号が決まり新しい時代が始まる。社会や経済の仕組みが直ちに変わる訳ではないが、三つ目の時代に生きることになった高齢の自分ながら、妙にわくわく

している。戦争、高度経済成長の昭和を経て迎えた平成は、少子高齢化が急速に進み、平成19年(2007年)をピークに日本人

口は減少に転じた。都市への人口集中は止まることなく、都市と山村の格差は埋まらなかつた。阪神淡路大震災、東日本大震災と原発事故相次ぐ集中豪雨など、途方もない代償を求められた災害も集中した。バブル崩壊、リーマンショックといった未曾有の経済

ムシフト、価値観の劇的な変化を育んだ時代とみることが出来る。大量消費社会のパラダイムを転換し、持続可能な社会を実現することが必要だとする理念や価値観は、後戻りすることはないだろう。

これまでの日本社会は、団塊の世代の成長に合わせて、教育、雇用、住宅など社会基盤や経済の仕組みを作ってきた。この世代が後期高齢者となる時期を乗り切

れば、すべての社会の枠組みを縮小に転換することができるのである。政治家が、大手を振って「縮小する社会の先に幸福を見つけよう」と言える時代はすぐそこに来ている。

ひたすら拡大と成長を追い求めてきた社会観や経済観をリセットし、前向きに小さくなる時代、戦わなくていい、支え合う令和という時代に、わくわく感が止まらない。

センター長の ミライのフツツに 向かって!



センター長
鈴木辰吉

vol.54
平成から令和へ

イベント情報

内山節氏講演「森林と社会と暮らし」～森とともに暮らす豊かさを未来へ～

おいでん・さんそん森林部会は、住民、行政、NPO、専門家が集い、健全な森とともにある豊かな地域社会の実現に向けて研究・取組を行っています。2014年に発足して以来、矢作川流域の森林と向き合い、地に足の着いた実践を重ねています。

この度、様々な人に森とつながる豊かな暮らしを実現していただくための入門書「はじめての山仕事ガイドブック」を出版します。それを記念して、^{うちやまたかし} 哲学者・内山節さんをお招きし、森とともにある社会・人々の暮らしのあり方についてお話いただく講演会を開催します。景色としての森が、暮らしのなかの森に変わるきっかけになれば幸いです。

- 日時 | 2019年5月28日(火) 18:00開場 18:30~20:10
- 場所 | 足助交流館「飯盛座」(定員250人)
- 参加費 | 資料代500円(ガイドブック1冊付き)
- プログラム | 18:00 開場 / 18:30 開会・あいさつ / 18:40 記念講演「森林と社会と暮らし～森とともに暮らす豊かさを未来へ」内山 節(哲学者) / 19:50 出版PR / 20:10 閉会
- 講師プロフィール | 内山節氏(哲学者・前立教大学大学院教授 / NPO法人森づくりフォーラム代表理事) 1950年東京都世田谷区生まれ1970年頃から、東京と群馬県の山村、上野村との二重生活をしている。主な著書:『森に通う道』(1994年新潮社)、『<里>という思想』(2005年新潮社)、『共同体の基礎理論』(2010年農山漁村文化協会)、『内山節のローカリズム原論』(2012年農文協)、『新・幸福論』(2013年新潮社)



●「はじめての山仕事ガイドブック」について | 「はじめての山仕事ガイドブック～森の恵みを受けながら、地域の森をよみがえらせよう～」は、森林と関わることに豊かな暮らしを見出そうとする人のための山仕事入門ガイドです。健全な森づくりに多くの人々が関わることで安全で持続可能な地域をつくるためのヒントを集めました。・山仕事を職業としたい人・健やかな森を次代につなぎたい山主・森の恵みで豊かな暮らしを作りたいU・Iターン者・都市に住みながら森と関わりたい人・山仕事を通じて仲間づくりをする森林ボランティア、など様々な人に森とつながる暮らしを実現していただくためのガイドブックです。(A4版56ページ 定価500円税込)

*画像はイメージです。



●申込方法 | 件名に「はじめての山仕事ガイドブック出版記念講演会」、本文に、参加者氏名、電話番号、FAX番号、メールアドレス、所属、在住地(豊田市内、市外(市名)、県外)を記入の上、ファックス(0565-62-0614)、メール(sanson-center@city.toyota.aichi.jp)、郵送(〒444-2424豊田市足助町宮ノ後26-2)のいずれかでお申し込みください。

●応募締切 | 2019年5月24日(金)

●問合せ | おいでん・さんそんセンター-TEL: 0565-62-0610



セカンドスクール2019春フリー版

山村地域の豊かな自然と人に囲まれたプログラム体験



3/25(月)～31日(日)まで、セカンドスクール2019 春フリー版「おいしい体験 in しもやま 自分で釣って作って食べちゃおう」(下山地区)、「山のこどもになる!3日間 春版」(稲武地区)、「山っ子くらぶ」(旭地区)、「あさひ山里ぼうけん遊び隊」(旭地区)の4つのプログラムが開催されました。

「おいしい体験 in しもやま」には17名が参加しました。釣った魚が夕飯の食材になったり、手作りウインナーでポトフを作ったりと、素材が育つ環境を目の当たりにしながら、準備から作る過程までを体験できる内容が実施されています。

「山のこどもになる!3日間 春版」は17名が参加し、グループに分かれて、農家のお宅にホームステイすることを中心とした体験プログラムを実施しています。ジャガイモを植えたり、木のイスを手作りしたりと、それぞれのお宅の環境によって違った体験をしました。最後、体験を共有する会では、各自が興味をひかれた体験について語っていました。

「山っ子くらぶ」は36名が参加しました。5班のグループに分かれ、木こり体験として、1班1本の木を倒し、工作をしてできたものを、子どもたちが抱えて、撫でている様子が印象的でした。このプログラムは自由な時間も多く、小学校として使われていた「つくラッセル」の校舎を、子どもたちは歓声をあげながら駆け回っていました。スタッフには10代～20代の方もいました。中学生になった以前のプログラム参加者がリーダーをつとめ、過去に研修としてセカンドスクールに関わった大学生が運営スタッフとして参加していました。普段お



稲武地区で開催した「山のこどもになる!3日間」



旭地区「山っ子くらぶ」での木こり体験

となしい子ども、個々の「やりたい」を口にすることが当然の空間ができていました。

「あさひ山里ぼうけん遊び隊」は14名が参加しました。こちらのプログラムは、「自由・人権・主体性」を基本理念とし、寝るのも起きるのも、遊んでも読書をして、何をしても自由な3日間を過ごします。大人も子どもも対等に、困ることは理由を説明してお願いをし、ルールも自分たちで作って遊びます。マッチを擦ってみたい、お手伝いすることが楽しい、雨の中で遊びたい、お手紙を送りたいなど、さまざまな「やりたい」が生まれた3日間だったようです。

全体を通して、リピーターの参加者が多く、保護者の方からは、「こういった機会があることが有難い」、「帰ってきてから弟に対する声かけが優しくなった」、「楽しかった思い出をたくさん話してくれた」というご意見もいただいています。

セカンドスクールでは、稲武、旭、下山、足助地区をフィールドに市内の小学生が、自然のなかで地域の方と交流しながらさまざまな山村の体験を行っています。今後も夏、春と開催が予定されています。ご興味のある方は、ぜひ、ご参加ください。(田中敦子)



下山地区「おいしい体験 in しもやま」手づくりのソーセージでつくったポトフとホットドックでお昼の様子



旭地区「山っ子くらぶ」では、鶏を捌く「にわとりまるごといただきます」が行われた



旭地区「あさひ山里ぼうけん遊び隊」は、自由・人権・主体性を基本としたプログラムを実施した

築かれ、やがて成果につながっていくように感じました。
旭地区加塩町で 空き家片付け大作戦
3月24日(日)、「空き家片付け大作戦」が旭地区加塩町で開催されました。
加塩町のある敷島自治区は、定住促進の先進地区。自治区の定住促進部が主体となって企画をしました。片付け物件は離れのあるとても大きな建物で多くの出入を要する難易度の高い物件です。センターは、片付けボランティア募集の応援をしました。

「空き家情報バンクローン」で田舎暮らしを応援している豊田信用金庫の社員が6名、旭地区の私有林にある秘密基地「さく」
3回目の「空き家片付け大作戦」となる今回は、「フレコンバック」を使うのゴミの分別、グループ分けや役割分担が上手いきき、大変スムーズに作業が進みました。貴重品は事前にリサイクル業者が引き取っていたので、とにかく荷物を運び出すことに注力しました。
空き家片付けは荷物の運び出

しもさることながら、分別がとても大変です。地元の女性陣が分別を担当したのですが、ベテラン主婦の皆さんは仕事で本場に速く、並べられたフレコンバックにどんどん収まっていききました。そして家主さん自前のユニットが大活躍し、バックに運び出すことができました。今回はお楽しみ企画として、不要となったものの中から「お宝探し」をし、入札するイベントがあり、大いに盛り上がり楽しいひと時となりました。
五徳 空き家片付けの
参加者のアンケートには、「参加させていただきありがとうございました」と多くの方が書いていたのが印象的でした。応援する側、される側の双方が感謝しあう素敵な関係が生まれたのです。
また、アンケートは、告知チラシに書いた参加の五徳①お宝発見②断捨離スイッチが入る③田舎暮らしのイメージがつかめる④地域の人と仲良くなれる⑤社会問題を解決し汗も流してもスッキリ、の5つのどれもが達成できたことをうかがわせる内容でした。
「空き家の状態が続いて、長い



片付けの前、たくさんの荷物が詰め込まれた部屋の様子

事ずつと気に病んできました。今日綺麗になって、本当にホッとしました。作業が終われば振り返りをしていた時に、地元の方が言われた言葉です。良かったと思えた瞬間でした。
モノを溜め込まない シンプルな暮らしを
「空き家片付け大作戦」は、残された荷物が多すぎて空き家情報バンクに登録できない空き家がある場合、地元自治区などが中心になり企画します。センターはボランティアの募集や告



黙々と分別に励む参加者



空き家情報バンクを紹介する豊信の社員



トラックに積み込まれたフレコンバック



荷物が続々とフレコンバックに詰められていく



知、片付けのノウハウ提供などで協力しています。
物置や押入れの多い田舎の家には、想像以上の荷物が入っています。いざ片づける際に家族の方達の大変な労力が予想されます。なるべく物を少なくし、シンプルで豊かな暮らしを目指していくことが大切に思われます。
今回の移住定住イベントで紹介された物件たちに、あかりが灯りますように。(小黒敦子)